

令和5年度第3回神奈川県公立高等学校協議会
議 事 録

- 1 日 時 令和5年8月28日（月）
14時00分～14時40分
- 2 場 所 神奈川県自治会館8階 805・806会議室
- 3 出席委員等 田沼 光明 大澤 一仁 川名 稔 竹内 博之
柏木 照正 吉田 和市 宮村 浩文 古俣 和明
鈴木 史洋 山田 ふみ子 渡貫 由季子
松田 哲治 鴨下 博厚

（敬称略）

座長（山田委員）

定刻となりましたので、「令和5年度第3回神奈川県公私立高等学校協議会」を開催いたします。私学振興課長の山田です。前回に引き続き、座長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

皆さま本日はご多用の中、また大変暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。本会議は、原則公開とされておりまして、取材、傍聴者等につきましては、既に入室されておりますのでご承知おきください。取材の方から最初に写真を撮りたいという申し出がございましたのでよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

それではお願いいたします。

なお、本日は、神奈川県立高等学校長代表の加藤俊志オブザーバー、神奈川県PTA協議会代表の川名大介オブザーバーがご欠席となっておりますので、ご承知おきください。議事に入ります前に、お手元の資料と併せて「かながわ教職員組合連合及び神奈川県高等学校教職員組合」から、8月17日付けで当協議会あての申し入れ文書が提出されております。文書の写しをお配りしておりますので、ご確認いただければと思います。

それでは、さっそく議事に入らせていただきます。お手元の次第に従いまして議事を進めさせていただきます。議題は前回に引き続きまして「令和6年度の『高等学校生徒入学定員計画』の策定について」となっております。前回もお話しさせていただきましたが、例年当協議会において、翌年度の公私の入学定員について協議を行いまして、公私間での合意を得た上で、その結果を神奈川県公私立高等学校設置者会議に報告しております。協議に入る前に、前回の会議における議論を整理させていただきます。前回の会議では、令和5年度の入学者選抜の結果が報告されまして、委員の皆様、オブザーバーの皆様から色々なご意見をいただきました。その上で、令和6年度の定員目標の設定方法については、昨年度に引き続き、「公私各々が実現を目指す定員目標を設定する方式」によることを確認いたしました。また、定員計画における冒頭にある、令和3年度からの定員計画から追加いたしました、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえた文言ですが、今年の5月に感染症法上の位置づけが5類に移行したこともありまして、前回の協議会においても、もう少し表現を工夫してはどうかというご意見をいただきました。協議の結果、文言については、一旦、事務局が持ち帰りまして、反映する方向となっております。この点以外は、時点修正を除きまして、昨年度の定員計画から文言の修正はないことを確認しております。そして、公私の具体的な定員の目標数値については、それぞれが持ち帰り、ご検討いただくことといたしました。以上が前回会議の振り返りとなります。

このあと、公私それぞれから定員目標の検討結果をご報告いただきますが、合意文書

について、座長案として前回の会議の結果を反映しておりますのが、お手元にあります資料のうち「資料3」の令和6年度の「高等学校生徒入学定員計画の策定について（座長案）」の1ページ目より冒頭文書にある、2段目のなお書き部分、「なお、令和6年度入学者選抜にあたって、新型コロナウイルス感染症を含む感染症の状況によっては、入学者選抜の実施にあたり必要な検討を行う」と文言を変更させていただきました。こちらの座長案について、ご意見等ございますでしょうか。

全委員

意見なし。

座長（山田委員）

特段なければ、このとおりとさせていただきたいのですがよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

ありがとうございます。続きまして、定員の目標数値について、公私それぞれからご報告いただきたいと思います。また、目標設定の考え方ですとか実現に向けた取組等があれば、併せてご説明をお願いいたします。まず、私学側からお願いいたします。

田沼委員

私学側としましては、来年度の人数につきまして、15,000ということをご提案したいと思っております。この3月のところで15,000を超えておりますので、それから、減る人数でございますけれども999ということで、そんなに大きい人数ではないと考えて、15,000は取れるのではないかという風な考えを持ちまして、そのように提案をさせていただきます。

座長（山田委員）

ありがとうございます。続きまして公立側お願いいたします。

渡貫委員

公立側ですが、令和6年3月の公立中学校卒業予定者数が、前年と比べて約1,000人の減少が見込まれているというところを考えまして、また、県立の方では、県立高校改革実施計画Ⅲ期による再編・統合やインクルーシブ教育実践推進校の特別募集校の追加などがあること、また各学校の施設の状況などを色々と考慮いたしまして、公立側としては900人減の39,850人程度を目標とする数字でお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

座長（山田委員）

ありがとうございました。それではここで、私学側からは15,000人、公立側からは39,850人という数値目標が示されたのですけれども、こちらについてそれぞれ色々お考えがあると思いますけれども、それを確認していただくために、会議を一旦休憩したいと思いますけれどもいかがでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

それでは、公立、私学それぞれ控室をご用意しておりますので、そちらに移動していただきまして、数値目標についてご確認いただきたいと思います。それでは、ただいまから10分休憩といたしまして、再開は14時18分頃ということですのでよろしいでしょうか。それでは移動のほうよろしくお願いたします。また後でこちらにお集まりいただければと思います。よろしくお願いたします。

休 憩

座長（山田委員）

それでは協議を再開させていただきます。提案された定員目標数について、それぞれからご意見をうかがいたいと思います。まず、私学側お願いたします。

田沼委員

公立側の数をお聞きしまして、中学3年生の減少に合わせてお考えになられたということで妥当な数ではないかなという風に思っております。私学側でございますけれども、はじめ15,000と去年も取れておりますので、そのような形でご提案をさせていただきましたが、公立側も減らしているということ、それから公私協調ということの会議でございますので、私学側も少し減らしまして14,950と、50名ほど先ほどよりも小さな数という形にしたいと思っております。私学側の委員からも公私協調でいったほうが良いという意見もございまして、公立側の考え方も踏まえまして、そのようにご提案させていただきますと思います。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは公立の委員いかがでしょうか。

渡貫委員

今、私学の方から公私協調ということで、お互いに少しずつということでご意見いただきまして、そのように一緒にやっていけたらと思っております。公立の方の数字は、色々学校の施設のことなども考えて、先ほどと同じように900人減の39,850人程度目標ということでお願できたらと思っております。

座長（山田委員）

ありがとうございます。ただいまのご発言があったのですが、これについて何か追加でご意見等ございますでしょうか。

竹内委員

検討しまして公私協調路線を考慮して今年の定員目標から50減にしましたが、実は、今年度は目標値15,000に対して15,050、昨年でいうと15,070取れているので、次年度も15,000いけるのではないかという意見もありました。また、協調するという事で区切りよく100減らしてもという意見もありました。それでも次年度も15,000人を超えるのではないかという思いもあったので、最終的に50減という形にさせていただきました。ただ、これで県外にどれくらい流出するかまだ分からないですけれども、ある程度その辺を予想していただき、全日制進学率がどれくらいになるか、少し心配なのですが調査してもらえませんか。

座長（山田委員）

それでは今ご質問があった全日制進学率が、私学が14,950、公立が39,850とした場合の全日制進学率を事務局で計算をお願いします。

事務局

計算の結果、ご報告いたします。先ほど、公私それぞれから発表がありましたとおり、令和6年3月の公立中学校卒業予定者67,003人に対しまして、公立の定員目標を39,850人、私学の定員目標を14,950人とし、県外の全日制高等学校への進学者の割合を直近3年間平均の8.29%として計算しましたところ、全日制進学率は90.1%となります。以上、報告いたします。

座長（山田委員）

ありがとうございます。前回この場で発表があったとおり、直近の全日制進学率は90%を割り込んでしまったのですけれども、来年度はまた約1,000人近く生徒が減るという中であって、公立と私学がそれぞれの目標数値を達成したところでは、全日制進学率の目標は90.1%になるという計算です。それでは今の結果を受けまして、また皆様からご意見をうかがいたいと思いますが、私学側いかがでしょうか。

田沼委員

全日制進学率も90%を少し超えるというようなところでの報告を受けたことでございますので、私もこれでいいのではないかなという感じがいたしております。ただ、この前もちょっと申し上げたのですけれども、広域通信制がだいぶ人数を取るようになってきているということがございます。多様化ということで、ある程度、広域も含めて通信制の意義はあるとは思っているのですが、この前も申し上げましたように、8月、9月から募集をして、9月には合格者が出ている。この前もちょっとおうかがいしましたの

が、県教委で10月に全日制の希望調査をなさいますが、この希望調査が確か89. 何%だったかな、希望調査の段階で90%を下回るというようなことが起きてきております。通信の意義については、ある意味で多様化の中であるとは思いますが、このように早くから募集をすることが果たしていいことなのかどうか、というのが、ちょっと私は疑問でございます。私どもは全日制進学率を上げようということで、本当にこういう努力をこの会議でしているわけですから、その通信の募集の在り方というのがどんなもんかなという風にはちょっと思います。また、公立中学の教育が充実するように、公立もそうですけれども、私学の方も中学校長会と協定して、なるだけ入試を遅くしている、1月とか2月にしているというのが県の在り方なんです。中学の教育がおかしくならないように充実するよという形で、そういう風な協定を結んでいるにも関わらず、9月あたりにもう合格者を出しているというのは、県が教育を良くしようとする在り方に、ある意味で抵触してしまうのではないかなという風にも私は思うわけです。これは県の枠外なので、なかなかこれは難しい問題ですが、こういう問題があるということ、私ここでは申し上げておきたいと思っております。非常に問題であるということをやはりひとつ認識をしておかなくてはならないと思っております。

座長（山田委員）

ありがとうございました。続きまして公立の委員いかがでしょうか。

渡貫委員

90.1%ということで、昨年度の目標値は若干下回ってはいるのですが、90%を超えておりますし、それから実績値は上回る目標設定となりますので、こちらの数字でよろしいのではないかと思います。公立側も定員目標達成に向けて取り組んでいきたいと考えております。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは、同じく公立側で宮村委員いかがでしょうか。

宮村委員

横浜市の宮村でございます。ただいま公私協調という考え方のもと、私学からまた再度、定員の提示がされたところです。そこで全日制の進学率が90.1%となる見込みということで、数値としては適当なものだという風に考えております。横浜市といたしましても定員の充足に向けてしっかりと努力をしていきたいと思っております。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは川崎市の古俣委員お願いいたします。

古俣委員

川崎市の古俣でございます。色々と課題等も指摘をいただいているところでございますけれども、本日の議論、協議を踏まえまして必要な調整はできているのではないかと

考えておりますので、適切な計画になっているかと考えております。以上でございます。

座長（山田委員）

ありがとうございます。続きまして横須賀市の鈴木委員お願いいたします。

鈴木委員

これまでの経緯、それから今日の話し合いの経過も踏まえまして、適正であるという風に考えています。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは松田オブザーバーいかがでしょうか。

松田オブザーバー

県公立中学校長会の松田です。数値につきましては妥当なところかなとは思ってはおりますが、先ほど、ずっと話題にあがっている通信制につきましては確におっしゃるとおりで、いいのだろうかと思うようなところもあります。ただ、ここは受けてはいけませんよということを中学校側で言うわけにはいかず、直近のひとつの例として確かに9月に1件あります。それは個別の事情があり、いたずらにそれを決めたということではないのですけれども、9月中のあるいは年内のものが何回かあります。推薦で受検した場合は受検料を免除します、それから推薦で合格した場合は入学金を免除します、そういうものがあるわけですが、年を跨いで来年の一般に移ってしまうと募集がないわけではないのだと思います。昨年度3月に一般で入った生徒もおりますので、決してなくはないのだけれども、早めに決めたらという、そのあたりというのほどが所掌しているのかわからないのですけれども、色々事情を抱えた生徒ですので、進路がいつまでも決まらないというのは不安なんですよね。だから早めになるとそういったところののってしまう。そして直近の事例だと決してどこのどんな学校だと分からない学校ではなくて、それなりに名前も知れた実績のあるところなので、自分も生徒と面談をした上ですけれども、受けていくということで中学校側としては了承せざるを得ないというところが一つあります。それから、これは同じ公立の学校としてなんですけれども、これはどこに申しあげたらよいか分からないのですが、施設面での改善というのが、公立学校がなんとかかなれば、また違ってくるということも感じております。学費の補助ですとかそういったもので、私立、学費が高いということではなくなっているところもあります。実際に説明会が催されて、色々な学校を見て回ってきて、最終的に公立のここがいいのだけれども、ちょっと本当に施設が大丈夫なのかというところで迷っている、私立に切り替えるという、そんな生徒も全部ではないですけれどもおりますので、そういったところの学ぶ環境の改善ということが公立学校においても、実は中学校においてもそうなんですけれども、喫緊の一つの課題と思っているところです。以上です。ありがとうございます。

座長（山田委員）

ありがとうございました。続きまして鴨下オブザーバーお願いいたします。

鴨下オブザーバー

私学保護者会連合会の鴨下と申します。先ほど来、ご議論のありました入学定員の目標設定数、それについては保護者の立場ですので、それぞれでご検討された数字でよろしいかと私は思っております。今、松田オブザーバーのお話しにもありましたけれど、私学というのは、各校独自性があるって、特色ある教育を行っていて、ということが魅力であって、保護者としてはこの学校に入りたいという風に考えて行かせております。授業料の無償化みたいなことは、経済条件はあってもだいぶ進めていただいている、学校選択について障害が少なくなっている状況ではあると思うのです。当然、学校の運営とこののを安定的にさせていただくということも大事なことで、経常経費の助成とか、そういった点についても、もっと拡充をしていただくというようなこともしていただければという風に思っております。以上でございます。

座長（山田委員）

ありがとうございました。最後のところは、私ども私学振興課が受ける話でございますので、要望はしっかりと受け止めたいと思っております。それでは、皆様からご意見いただきましたけれども、終わりに何かご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

竹内委員

広域通信制ですが、やはりある事情があって、そちらの方へ流れていくのは致し方が無いと思うのですが、漏れ聞くところによるとやりたいことだけやって高校卒業の資格を得ていると、そういう子もいると聞いたりもしておりますから、その辺はきちんと指導していただいた方が、やっぱりそういった子に対しては対面で人間教育をする事の大切さというのは教えて欲しいなと思います。それから90.1%、ぎりぎりですね。これをクリアするように公立側も頑張ってください。私学側、14,950は実は私いけると思っています。公立側も思い切って900減らしていただいたのですけれども、それを満たせるようにお互いに頑張っていきましょう。よろしく申し上げます。

座長（山田委員）

ありがとうございます。他にご意見がある方は。よろしいでしょうか。

それでは、公立の定員目標が39,850人、私立の定員目標14,950人ということになります。よろしいでしょうか。

全委員

異議なし

座長（山田委員）

ありがとうございます。これによりましてお手元の資料の3の5ページ、四角囲みのところの現在空欄となっている「・」の三つ目、こちらが公立のところ「39,850人程度」となりまして、次の「・」の私立の定員目標が「14,950人程度」と記載することとなります。合意文書案について、他にご質問ですとかご意見ありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日の議題のまとめに移らせていただきます。

ただいま公私の双方から提案されました定員の目標数値及び合意文書の内容について、ご了解をいただきました。これを踏まえまして令和6年度の定員計画を最終的に整理させていただきます。本日の協議において、定員目標に係る公私間の合意が整ったところですが9月6日に開催を予定しております「神奈川県公私立高等学校設置者会議」の中で私から報告をさせていただきます。そこでこの定員計画の最終決定とさせていただきます。なお、最終的な文書の案や形式の微調整につきましては、恐縮ですが座長にご一任いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

全委員

異議なし

座長（山田委員）

それでは、最後に「その他」として皆さまから他に何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

全委員

なし

座長（山田委員）

よろしいでしょうか。それでは、これをもちまして令和5年度第3回の神奈川県公私立高等学校協議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。